

| ステップ | 運 転 操 作 | 参 考 事 項 | 備 考 |
|------|---|--|--|
| | <p>A0-16-207 PNL9-41 (T2) ⑤7 ~ ⑥0 ジャンパー</p> <p>11. 圧力抑制室ベント弁[A0-16-205] (S/P 水位計 OS の場合, 格納容器ベント弁[A0-16-207]) を「開」する。 (補 2)</p> <p style="text-align: center;">SGTSライン</p> <p>1. 非常用ガス処理系入口弁 (R/B 側) [BF3-5A, BF3-5B] の COS を全閉位置にする。 (補 3) (SGTS が運転中の場合は停止する。)</p> <p>2. SGTS A (B) の出入口弁を全開にする。 SGTS A 入口弁 BF3-6 SGTS A 出口弁 BF3-7 (SGTS B 入口弁 BF3-8) (SGTS B 出口弁 BF3-9)</p> <p>3. 不活性ガス系隔離信号バイパスキースイッチを「圧力抑制室」 (S/P 水圧計 OS の場合「格納容器」) 側にする。</p> <p>4. PCV SGTS 側ベント弁[A0-16-218]を「開」する。</p> <p>5. 圧力抑制室ベント弁バイパス弁[A0-16-206] (S/P 水位計 OS の場合, 格納容器ベント弁バイパス弁[A0-16-208]) を現場手動ハンドルにより徐々に「開」とする。 (補 4)</p> <p>6. SGTS A (B) 入口流量 FIC-E2-3 (4) の指示を確認する。 (以上の操作で S/P (D/W) の減圧ができな い場合には更に以下の操作を行う。)</p> <p>7. SGTS A (B) を起動する。</p> <p>8. 圧力抑制室ベント弁[A0-16-205] (S/P 水位計 OS の場合, 格納容器ベント弁[A0-16-207]) を開可能とするため, 下記隔離弁の隔離信号をバイパス (ジャンパー) する。 A0-16-205 PNL9-41 (T2) ⑤2 ~ ⑤6 ジャンパー A0-16-207 PNL9-41 (T2) ⑤7 ~ ⑥0 ジャンパー</p> <p>9. 圧力抑制室ベント弁[A0-16-205] (S/P 水位計 OS の場合, 格納容器ベント弁[A0-16-207]) を「開」する。 (補 2)</p> | <p>(補 2) 圧力抑制室ベント弁[A0-16-205] を開にすると, SGTS 及びパージファンラインの耐圧が低いため破損し, 建屋内が PCV 内ガスにて汚染する可能性がある。</p> <p>(補 3) SGTS を PCV 排気運転モードに使用する場合には, PCV 内のガスを原子炉建屋に流入させないため SGTS 入口隔離弁 [BF3-5A, BF3-5B] を全開させる必要がある。</p> <p>OS : オーバースケール</p> <p>(補 4) 圧力抑制室ベント弁バイパス弁 [A0-16-206] の「開」操作は, 現場の手動ハンドルにより徐々に行う。CS 操作により開にすると, SGTS 及びパージファンラインの耐圧が低いため破損し, 建屋内が PCV 内ガスにて汚染する可能性がある。 (R/B に入れない場合, SGTS A (B) 入口弁 [BF3-6 (8)] を手動にて徐々に「開」操作する。 この場合, 2. で行う SGTS A (B) 入口弁操作を 5. の後に行うこと。)</p> <p>(補 2) 圧力抑制室ベント弁[A0-16-205] を開にすると, SGTS 及びパージファンラインの耐圧が低いため破損し, 建屋内が PCV 内ガスにて汚染する可能性がある。</p> | <p>参考資料 参考 5 図 3</p> |